



初冠雪の北アルプスとりんご。周辺には甘い香りが。

(写真 松本博充)

- 小川に生きる
- 小川に灯る
- サークル紹介
- ここに生まれた
- 図書だより
- 分館紹介 - 稲丘東分館 -
- 小川短歌会作品





公民館と私

手塚 里子さん

(向清水坂)

生まれも育ちも小川村。数年間は県外にいましたが、家庭をもつたら子育てはここでと思っていました。

そんな私が家庭の人となり、長女が小学生になる頃、公民館図書室を整備するということで、蔵書整理のお手伝いに声がかかりました。現在の図書室のはじまりです。村の古い施設にあったものや保管に苦慮していたもの等を含み、村の財産である多くの書籍が集められています。これらを分類し、その一冊一冊にプロフィールを与え台帳を作製します。こうして書くと言ですがその工程は細かな作業が数々あり手作業なので時間がかかります。しかし、それまで知らなかったことを知る充実感や慣れてくると工夫ができる楽しみを感じていきました。その後は手探りの図書館業務の日々・・・私と図書館、本、公民館との出会いです。

また、こどもや文化等に関心を持っていた私は、この

頃から知人に誘われて「子ども劇場」に参加。友人家族らと生の人形劇を観る参加型の活動をし、横の繋がりも深めることができました。こんな楽しい舞台を小川にも呼べる地域公演を知り、親子仲間できなりました。



1992.4.29 第3回子ども劇場地域公演

演を知り、親子仲間できなりました。手作りの仕掛人(？)はあたふたしながらも子ども達の出番も工夫して楽しめました。もちろん拠点は公民館です。協賛をお願いし、ほぼ全館を会場に前日準備から大いに支えて頂きました。年に一度の公演は、毎回大盛況でたくさんの子どもの達の笑顔に出会え、子育て中だから楽しめる活動だなあと思っていました。長女が中学生になる頃には子ども劇場を卒業して、その時の仲間達と人形劇サークルを開

始。公民館活動として創作や練習を重ね発表の場を頂きながら『にんぎょうげきぱれつ』はその後飯田の人形劇フェスタにも参加しました。勢いに乗ってというか、怖いもの知らずというか、子どものおかげさまというところでしょうか。

定期的に人形劇を観る機会をもてたことの影響はもうひとつあります。戦後生まれの自分は教科書で学ぶ戦争しか知りません。子をもつ親となって改めて知る戦地で散る若者のこと……たくさんの？を得ていく中で、朗読劇『この子たちの夏』に出会い、これを自主公演しようと声をかけ合い仲間ができました。



1992.8 朗読劇『この子たちの夏』

公民館で練習を重ね、意見を交わし、家族や知人を巻き込み、大きなステージに臨みました。珍しい形の公演に、公民館ホールは満員に。懐かしい思い出です。図書つながりでは、公民館でおはなし会を開き、関心のある仲間にも出会えます。

した。絵本のことやよみかせのことをもっと深めたいねということ、講師に本田好さん・すみ江さんを迎えての学習会が実現しました。その後、小川村図書ボランティアとして公民館・保育園・小学校・中学校が協同で取り組んだ「子どもと本をつなぐ講演会とおはなしのおくりもの」を開催しました。土曜日の午後、小学校を会場に多くの人の思いがひとつになりました。

振り返れば公民館には学びの機会を提案してもらい、始動すると支えてもらい、私にとつては社会参加の身近な存在でした。そしてそれは子どもの成長と共にあったなあと思います。声をかけてくれる友人がいる、呼びかければ響いていくという仲間がいる、ということに感謝です。

今回、この機会を頂いたことで自分の歩みの一部が整理できたようです。今後は私なりに郷土のいいところを探しをしていきたいと思えます。



2021.10 小学校での読み聞かせ

小川に灯る～受け継がれる電気の歴史～



大正12年12月27日。M氏住宅にて試験送電が行われました。近所の老若男女が黒山のように見物に訪れ、隅々の上まで目立つほどの真昼のような明るさに感嘆の聲が上がったといえます。この日初めて小川村に電灯が灯ったのです。翌年2月には本格的に送電が開始されましたが、当時は一般家庭で一家に一灯、裕福な家庭でも二灯～三灯と、電気は大変貴重なものでした。

今や私たちが当たり前のように使っている電気は、多くの先人たちの努力による恩恵であり、決して一日にして成し得たものではありません。今回は、今なお受け継がれる小川村の電気の歴史とその背景を辿ります。

水資源と川の落差という長野県の立地条件は、水力発電の宝庫といわれて、大正初期から県の各地に発電所が建設され、明治末年には電灯がついていたといえます。しかし、小川村及び周辺山間地へは電気の引ける段階には程遠く、町での電灯は便利なものであるという羨望の中にありました。当時の照明は石油を燃料とするランプであって、各戸には数個のランプが用意されてはいましたが、今日では想像もできない煩雑な操作が必要でした。

隣接地方が次々と電気の供給を開始する中、産業開発の発展に影響を及ぼすことを懸念し、電気事業の開発に踏み切ったのは、かつて県会議員や南小川村長を務



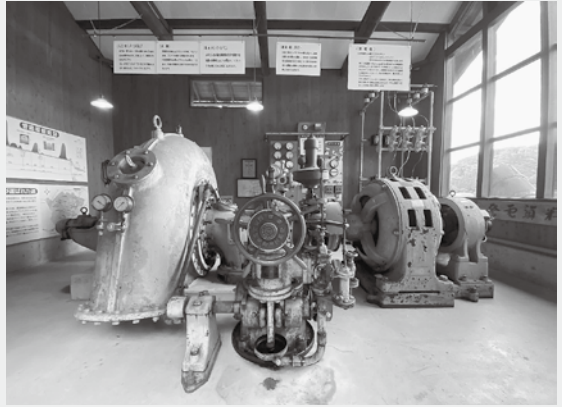
めた鎌倉太弥治（かまくらたやじ）氏（写真一列目左から二番目）。自分たちの電気は自分たちで生み出そうと、北小川村・南小川村同様、未だ電気を引くことができていなかった旧津和村（現在の信州新町）と共同出資による組合を設立するため

東京に赴き時の逋信大臣のもとを訪れました。一村二組合が原則であって三ヶ村（後に鬼無里を含めた四ヶ村）共同の広範囲にわたる大規模な組合設立申請は珍しく、許可を得るには大変な苦労があったといえます。



鎌倉氏の人物像について、お孫さんである鎌倉辰裕（かまくらしんや）さんは「身を削ってでもやり遂げようとする強引さが功を奏したのではないか。機転の利く人だったと聞いている。顔が広く、仲間の協力もあってこそだろう。」とお話してくださいました。

こうして「上水電気利用組合（設立当時「上水生産組合」）が設立され、組合は村内各戸が一口二〇円の出資を最低は三口、最高は三〇口といった引受によって出資し、集計約四六三二口の九万二千円余と借入金二五万円によって工事が行われることとなりました。発電所は、県へ依頼し土尻川の水量を測定するも需要を満たせず、裾花川を利用することとなり、隣村の鬼無里の日影に設けられました。発電機は東京の明電舎から購入し、ドイツのシーメンス社から輸入されたものでした。高府までは荷馬車で運ばれましたが、鬼無里街道の橋が発電



機の重量に耐えられるものではなく、高府から大洞を経て鬼無里の十二平までは人力で運ぶほか方法がありませんでした。その時使われたのが「かぐらさん」と呼ばれる運搬道具です（冒頭の写真）。

こうして大正11年4月1日、発電所の工事に着手し、試験送電を経て、大正13年2月より本格送電が開始されました。この電気は間も無く動力に使われ、電気精米所が各地にでき、また電気揚水が可能となったことで水田の開発につながりました。その後、昭和19年の配電統制令の実施に伴い、中部配電株式会社に電気利用設備が譲渡され、昭和46年11月に発電停止となりました。昭和51年3月には日

影水力発電所が廃止になったことに伴い、中部電力株式会社は鬼無里村に建物・構築物・機器を譲渡し、鬼無里村はこれを資料館で保存することとなりました。



平成16年、鬼無里村発電資料館が閉館となることとなり、その知らせを受けた鎌倉辰弥元小川村長は、当時平成建設の会長であった大日方茂木（おびなたしげき）さんに声をかけ、資料館の取り壊しの請負を依頼しました。発電機等の機器は譲り受けられることとなりましたが、小川村に電気が灯った証を後世に語り継ぐため、当時大日方さんが議長を務めていた小川村議会を中心に、村民や信州新町（旧津和村）等の有志の方々に協力を仰ぎ、また建設関係の同業者からの支援もあり、「旧上水電気発電所設備保存建設組合」の設立に至りました。そして平成17年10月1日、組合員から集めた出資金により、資料館（ふるさとらんど小川敷地内）が完成し、現在も西山地方の財産として大切に保存されています。



受け継がれた歴史は機器だけにとどまらず、かつて発電機が運ばれた道は今、長い年月を経て、有志の方々の取り組みにより生まれ変わろうとしています。その取り組みの発起人が、元地域おこし協力隊で道の駅パチョコの店主・中村雄弥（なかむらゆうや）さんです。もともと「歩きながら北アルプスの展望を楽しめる」トレッキングルート（フットパス）を村内に開拓したいと考えていた中村さんは、所属する小川山岳会内で話を持ちかけたところ、会友から「発電機が運ばれた道を使えば、高府から大洞高原までほぼ車道を使わずに歩いて登ることができのでは」という提案を受け、平成29年秋頃から山岳会メンバーと地域おこし協力隊員有志で、年に数回整備を行ってきました。平成30年度には村内の小中学生にこの道の通称を公募し、投票の結果「北アルプス青空散歩道（略称：青空散歩道）」に決定しました。その後、村民を対象にしたお試しトレッキングイベントの開催や、中学生の

学校登山の準備山行に活用してもらうなど、小川村の新たなアクティビティスポットとしての一步を踏み出しました。―「村の子どもたちにも歴史的経緯を持つ「青空散歩道」の存在を知ってもらい、実際に登ってもらえる機会を用意していくことが歴史の継承という観点からも重要なことだと考えています。」（中村さん）

しかし一方で、山岳会中心メンバーの高齢化や、中村さん自身も飲食店を開業して間もないことから、現在は整備作業が滞っている状況とのこと。整備作業に興味がおありの方がいらつしやいましたら、ぜひ中村さんまでお声がけください！



〈引用・参考〉

小川村誌

小川村発足50周年記念写真集『おがわの百年』

サークル紹介（参加してみました!）

小川キッズダンスサークル

「アミューズ」

今回は、今年の六月から本格的に活動をスタートしたキッズダンスです。小川で始める前は信州新町のダンスサークルに参加していたようですが、小川でもサークルを作るなら先生が来て下さる、ということので始まったそうです。参加者は現在、小学三年生から中学二年生の男子四名・女子十名です。サークル名の『アミューズ』は「みんな楽しくダンスをして、みんなに楽しんでもらおう」という願いを込めてつけられました。

集合するとまずストレッチ（時々体幹トレーニング）、ダンスの基礎（ステップや手の動き等）をし、このサークルのダンス曲での練習が始まります。前回までを振り



返りつつ、先生から「このステップはこうしてみよう」「手はこうして」「もつと大きく」等と修正が入りますが、何度か繰り返すだけで踊ることができ、呑み込みが早くてすごい、と思いました。

とにかくみんな一生懸命で「ダンスが楽しくて大好き」という思いが溢れていました、先生も「元氣いっぱいいい子たち。初めての子もダンスが好きという気持ちで上手になっている」と感じていて、男子は格好よく、女子は女の子が好きそうな動きを意識して振りを考えているそうです。何より『ダンスは楽しい』と思ってくれる心が一番だそうです。子ども達の中には買い物中に聞こえてくるお店のBGMについて身体が反応して踊り出す…、何てこともあるそうです。また学校の部活以外でもサークルと一緒にダンス出来るのが嬉しいそうです。

コロナ禍でなかなか人前で披露することが少ないようですが、ぜひ子ども達のダンスを早く多くの方に見てもらいたいです。練習頑張ってるね。このサークルの詳細は公民館に問い合わせをお願いします。ありがとうございます。



ママとパパ



令和3年5月14日、私たちのもとに可愛い女の子の赤ちゃんが誕生しました。

夫婦で名前を考え、小川の地で健やかにのびのびと育てほしいという思いから「菜々実（ななみ）」と名付けました。

平成30年、私は小川村で開かれたイベントで妻と出会い、昨年2月夫婦となりました。

結婚式はコロナ禍のため止む無く延期として準備を進める最中、菜々実が宿っていることが分かり凄く嬉しく思いました。だんだん大きくなっていくわが



父として

中村 貴也さん（和手）

子のエコー写真とともに、父親としての実感が高まってきたように思います。

母子ともに健康で予定日を迎えました。我が子は恥ずかしがり屋なのか、なかなか生まれてきてくれませんでした。

定期健診で大事を取り入院、翌日帝王切開にて無事生れてきてくれた時は、本当に小さくて、可愛い我が子が自分たちのもとに来てくれたことに、ただただ感謝しました。

妻の様態もよく、最高の一日になるはずでしたが、

その日の夕方、病院から菜々実の様態があまりよくなく、赤十字病院にて精密検査を行う必要がある旨の連絡



があり、急いでNICUに向かいましたがコロナの影響もあり、我が子とは面会ができず、お医者様からの説明までひたすら待合室で待つことになりました。

今まで生きてきた中で一番長く感じ、また、不安で押しつぶされそうな数時間でしたが、家族や友人などからの励ましもあり、そして何より一人病室で頑張つて戦っている我が子と、同じく不安で祈ることしかできない妻のために、自分にできる限りのことをやっていこうと心に誓い、父親としての自覚が一層深まったように思います。

その後、お医者様の説明で、様態は安定しており、しばらくは様子見で入院となることを告げられ、ひとまず安心することができました。



そこからは菜々実も順調に回復し一週間で退院することができ、ようやく家族三人での再会は、安堵と嬉しさに忘れられない日となりました。

お陰様で今ではあの日のことが嘘のようにすすくと育っています。

今回の経験で家族の絆が強まり、同時にどんなことがあっても父親として頑張っていこうと覚悟を持つことができました。

大変な時に支えて貰えた家族や友人、地域の方々には本当に感謝しております。

私はこれからも村で生活をしていく中で、多くの方々と支え合いながら生きていきたいと思ひますし、娘にもそうなつて欲しいと願つております。

出産で再度延期していた結婚式も11月に改めて行う予定です。

一人増え三人となった家族で人生の新たな一歩を踏み出しました。

皆様どうぞよろしくお願ひいたします。



7月24日

『夏の公民館 図書室まつり』

図書室だより

小さな木の実

第107号
図書委員会

7月24日に「夏の公民館 図書室まつり」を行いました。コロナ禍で様々な行事が中止になる中、少しでも子ども達に楽しんでもらいたい!!という思いで、感染対策をとりながら夏にぴったりの風鈴を作りました。

折り紙を一枚一枚重ねて組み合わせる作業はバランスが難しく、指先に集中し、みんな真剣な表情でした。花柄にストライプ、幾何学模様やスイカの形…。色とりどりでおしゃれな風鈴が出来上がりました。爽やかな音色が公民館に響き、素敵な夏の思い出となりました。

作品は図書室前に飾ってありますので、ぜひご覧ください。



消毒、マスク、ディスタンスをとりながら実施しました



細かい作業にじっくり集中!



姉妹仲良く色ちがいの風鈴づくり♪



個性豊かな作品ができました

クリスマスイベント 予告

今年度も図書委員会では Xmas のイベントを計画しています。まだまだ行動制限はありますが、皆さんが楽しめるプログラムを準備していますので是非ご参加ください。

詳しくは、後日発行するチラシ・ポスターをご覧ください。

※今後の新型コロナウイルス感染症の状況により変更する場合があります。



ぶっくるたんぽぽからのお知らせ

10月から図書袋が新しくなりました。大人用も3枚作りましたので、どうぞお使いください。

ブックスタート

～生後6ヶ月の赤ちゃんへ本のプレゼント～

『子どもに読んで聞かせたい本は？』

令和2年10月から
令和3年2月生まれの赤ちゃん

『だるまさんシリーズ』
かがくい ひろし



なかたに
しょうへい
中谷 桜兵衛くん

『ファンタンシリーズ』
キヨノ サチコ



きたやま
こうだい
北山 高太くん

『ねないこだれだ』
せな けいこ



なかやま
まお
高山 真緒ちゃん

『ファンタンシリーズ』
キヨノ サチコ



さかい
つむぎ
酒井 紬生ちゃん

分館紹介

稲丘東分館ヒストリー

稲丘東分館は、富吉栗本・和佐尾西松尾・味大豆で構成する小さな分館です。現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、当分館も活動を自粛しています。その中で分館紹介ですが、私の記憶と共に「稲丘東分館活動日誌」を紐解き、活動の歴史を振り返ってみたいと思います。

地滑り災害により昭和55年から使用不能となっていた「生活センター」が62年に新築され、区民広場も完成したことにより、長年の夢であった「盆踊り」をその年の8月から開催することができました。当日は朝早くから関係者全員で準備を行い、「小川音頭」をメインにバンド演奏、育成会の花火・ゲーム、カラオケ、ビール・ラムネの早飲み、ふうせん割、○×クイズ等を行い、最後は全員参加の大抽選会で幕を閉じ、区民・帰省者老若男女が入り交じりお盆のひと時を堪能しま

した。その後「盆踊り」は「夏祭り」へと名称を変え、村外の歌手を招いての歌謡ショー、楽農座の公演等を平成14年まで開催しました。

区民球技大会は親子ソフトボール大会として始ま

り、青年・壮年対抗戦を経て、4地区対抗区民ソフトボール大会となり、優勝カップの争奪戦を行います



平成 22 (2010) 年 6 月 13 日 稲丘東区民旅行

た。会場の区民広場は、十分な広さを確保できないながらも稲丘東特別ルールにより、楽しい大会となりました。現在は、マレットゴルフ大会として継続しています。

長年続いて
いる花尾分館
との交流会は、毎年8月に球技大会を行いました。
運動後の懇親会が楽しみで、夏のひと時を満喫することができました。

区民旅行は、近隣の温泉・観光地はもとより県外に



敬老会

も出かけ、ゆっくり温泉につかり、宴会で親睦を深めるといふ至福のひと時を過ごすことができました。

敬老会では元気な先輩方の、ご長寿をお祝いしてきました。近年は老人クラブとの協賛により小川荘での保養に併せ開催しています。

冬場のレクリエーション大会は主にゲーム、ビデオ鑑賞を行い、運動不足の解消にボーリング大会も行いました。

分館の助成団体も多いたときは8団体あり、現在も4団体が活動しています。

かつては80近くあった戸数も時代の流れと共に激減しましたが、嬉しいことに新しい仲間も増えています。一日も早くコロナ禍が収束し、大いに語らい、大いに笑いあえる分館活動が再開すること
を願っています。



稲丘東分館長
和田 重孝さん



《小川短歌会作品》

◎通販の曲名リストに若き日の我も時代も浮かび
流れる
西沢 哲朗

◎朝焼けのきれいな雲に誘われて金木犀の仄かな
香り
染野喜久子

◎青空に山の景色のくつきりと「天高く馬肥ゆる
秋」なり
稲葉 利江

◎派閥への配慮鮮明と政界のニュース聴きつつカ
レンダーを剥ぐ
伊藤 宗善

◎年老いて都会に住む娘のもとに行く話聞きつつ
若き日偲ぶ
鎌倉まさ子

◎峡の村秋蕎麦のみのりも豊かにて鳥追いの鷹空
に舞いおり
松本 智

◎道の辺に自生のコスモス夕風に揺れてたおやか
思い出誘う
西條 定子